

平成 22 年度 第 2 回 文化財保護委員会会議録

■日時：平成 22 年 12 月 23 日（木）午後 1 時から午後 5 時 30 分

■場所：郷土資料館会議室兼資料取扱室

出席者：島村圭一委員長、新井浩文委員、長谷川清一委員、中村豊委員、岩上孔昭委員
青木秀雄館長、河井伸一主査、横内美穂主任

会議次第

- 1 現地調査・視察
 - ①西光院
 - ②宝生院
- 2 あいさつ
- 3 議題
 - (1)視察研修のまとめ
- 4 特別展「江戸時代の絵図」の見学

会議概要

- 現地調査・視察
 - 西光院中世文書、朱印状の採寸
 - 宝生院の板碑や百間小学校で使用した机
- 現地調査のまとめ（郷土資料館会議室）
- 特別展「江戸時代の絵図」の見学

会議録及び調査結果

○役場前に集合。庁用車 1 台で西光院に向かう。

○西光院調査

- ・西光院本堂で住職から焼失前の西光院の話聞く。昭和 27 年の焼失時には本尊の薬師三尊は先代住職が持ち出す。西光院朱印状等の重要な書類は中置の鈴木明氏が持ち出す。朱印状は元々、本堂裏手にあった朱印蔵にあったが、戦後、疎開者に住む所を提供するため、朱印状等を本堂に移動した。それ以降、檀家の有力者たちに朱印状を見せるようになったという。そのため、鈴木明氏が朱印状のある場所を知っていたことから、火事の際持ち出すことができたのである。
- ・焼失前の西光院は玄関があり、玄関に入ったすぐ横に 6 畳の使者の間があった。その横には、本堂があり本堂の横の書院には上段の間があった。玄関との間には中庭もあった。

- ・粟田焼の茶碗と西光院中世文書、西光院朱印状を拝見する。まず、西光院中世文書の調査及び採寸を行う。中世文書は永禄 13 年の北条康成書状。これは折紙で包紙はない。料紙は楮紙であった。縦 38.2×横 62cm である。折幅 5.7cm。
- ・天正 14 年北条氏房判物は包紙あり。縦 33.8×横 49.4cm である。折幅 4.5cm。料紙は鳥の子紙。包紙は 40×5.5cm。「正徳 6 年秋 道佛村平兵衛婦納 岩付之城主太田十郎氏房 黒印」
- ・朱印状の調査を開始する。歴代順に行う。
- ・徳川家康朱印状。折紙。天正 19 年 11 月日。料紙は楮紙。包紙有り。22.5×7.8 cm。権現様の張り紙。縦 37.4cm×横 53.5cm。折幅 6.7 cm。
- ・徳川秀忠朱印状。堅紙。元和 3 年 4 月 8 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。45.7×6 cm。台徳院様の張り紙。縦 45.6cm×横 60 cm。折幅 2.7 cm。
- ・徳川家光朱印状。堅紙。寛永 13 年 11 月 9 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。50×9.5 cm。大猷院様の張り紙。「西光院」。縦 46.5×65 cm。折幅 8.5 cm。
- ・徳川家綱朱印状。堅紙。寛文 5 年 1 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。49.3×9 cm。厳有院様の張り紙。「武州太田庄之内西光院」。縦 46×64.4cm。折幅 8cm。
- ・徳川綱吉朱印状。堅紙。貞享 2 年 6 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。50.2×8.7cm。常憲院様の張り紙。「武州埼玉郡百間村西光院」。縦 46.9×63.3cm。折幅 8cm。
- ・徳川吉宗朱印状。堅紙。享保 3 年 7 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。50.4×9.3cm。有徳院様の張り紙。「武蔵国埼玉郡百間村西光院」。縦 46.6×64.8cm。折幅 8cm。
- ・徳川家重朱印状。堅紙。延享 4 年 8 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。48.6×9.8cm。惇信院様の張り紙。「武蔵国埼玉郡百間村西光院」。縦 46.4cm×64.2cm。折幅 8.3cm。
- ・徳川家治朱印状。堅紙。宝暦 12 年 8 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。49.6×9.5cm。凌明院様の張り紙。「武蔵国埼玉郡百間村西光院」。縦 46.4×64.5cm。折幅 8cm。
- ・徳川家斉朱印状。堅紙。天明 8 年 9 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。49×9.5cm。文恭院様の張り紙。「武蔵国埼玉郡百間村西光院」。縦 46.1×64cm。折幅 8cm
- ・徳川家慶朱印状。堅紙。天保 10 年 9 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。50.2×9.3cm。慎徳院様の張り紙有り。「武蔵国埼玉郡百間村西光院」。縦 48.6×64cm。本紙端裏下に西光院の張り紙有り。
- ・徳川家定朱印状。堅紙。安政 2 年 9 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。49.5×9.5cm。温恭院様の張り紙有り。「武蔵国埼玉郡百間村西光院」。縦 45.9×64cm。本紙端裏下に西光院の張り紙有り。
- ・徳川家茂朱印状。堅紙。万延元年 9 月 11 日。料紙は大高檀紙。包紙有り。48.6×9.3cm。張り紙なし。「武蔵国埼玉郡百間村西光院」。縦 45.6×64.6cm。本紙端裏下に西光院の張り紙有り。
- ・粟田焼茶碗。三つ葉葵の家紋入り。口径 12.2、高さ 6.5、底径 4.5、高台の高さ 0.6cm。
- ・鈴木雅楽助の持仏。像高 21、肩幅 7、腹幅 6、奥行 3、台座 高さ 3.5、幅 8、奥行 5cm。

- ・御朱印箱。縦 55、横 13、高さ 11.6cm。
- ・西光院での調査終了後、宝生院へ向かう。

○宝生院調査

- ・薬師堂の鍵が見つからなく調査断念。本堂内を見せてもらい、板碑や机の確認。調査終了後、郷土資料館へ向かう。

○郷土資料館会議室で本日のまとめ

- ・西光院朱印状と中世文書の調査は大きな成果があった。今までカラー写真がなかったため、本等の掲載に苦労していたが、本日の調査でよい写真が取れた。また、採寸ができたことも良かった。
- ・徳川家康朱印状についてはあまり状態が良くなかったことから、住職も言っていた通り、公開するのはやめた方が良い。(公的な場合を除いて)
- ・本日は徳川家康画像や近世文書、中世の写しの文書の調査が出来なかったため、後日調査を行いたい。仏像や阿弥陀堂カエルマタについても行いたい。
- ・毎年 12 月の保護委員会は指定文化財の視察及び調査を考えている。西光院の続きの調査は 12 月保護委員会で行いたいと思う。

○特別展「江戸時代の絵図の見学」